

SUMITOMO

リサイクル関連拠点



住友建機 リサイクル紀行

Vol.48 厳本金属(京都府)

794年の平安遷都から1000年以上にわたり、日本の都として栄えてきた京都は、大学や芸術の街としても知られ、伝統と新たな文化が融合する都市となっている。厳本金属(本社：京都市南区、厳本博社長)は、1957年に京都の地で創業したおよそ70年の歴史を持つリサイクラーだ。第3回『住友建機 リサイクル紀行』(2017年5月発行)以来9年ぶりに本シリーズで同社を訪れ、厳本将熙専務に近年の事業展開や取り組みを聞いた。

国家的な環境対応が進行 新スキームなども積極的に参画

京都・滋賀地区を中心に、大阪、岐阜、福井に11カ所の金属リサイクル工場を構える厳本金属は、近畿から中部エリアを網羅してスクラップの集荷・加工・選別を行っている。車両保有台数は国内最大規模を誇り、機動力も高い国内有数のリサイクラーだ。主力の鉄スクラップは月間およそ4万トンを扱っている。



デザインビルド」の推進を発表した。このほかにも工場発生スクラップの循環などで従来に無い鉄スクラップ流通の構築を図るなど、リサイクルの「質」に重きを置いた事業展開への移行が進んでいる。新時代を見据えた事業転換を進めるとともに、社内体制もハードとソフトの両面で強化・改善が続いている。2019年には京都工場内に同社初の非鉄専門工場を設

人事評価制度など時代に対応 「安全優先」の徹底は不変

厳本金属の厳本将熙専務は、企業の持続的な発展には働くスタッフの力が欠かせないとした上で、「社員にやりがいや働きがいを持って、胸を張って勤めてもらえる組織でありたい」と話す。会社としても

新時代に対応した制度への変革を進めているところだ。人事評価は、経営側からの評価のほか社員からの評価も取り入れるなど透明性と公平性を高めたものになった。能力や意欲が高い人材は積極的な登用を行っている。現在、現場も増えているという。法律の改正に順守しながら労働時間の見直しも図っている。

働く環境の整備にも着手した。2020年には京都本社



厳本将熙専務取締役
 在は40代の工場長も増えているという。法律の改正に順守しながら労働時間の見直しも図っている。

～住友建機がある風景～



SW350-7：大阪工場稼働するSW350-7はホイール式のマテリアルハンドリング機だ。ホイール走行の円滑な移動で油圧シャーへの母材投入など工場内の荷捌きを行っている。

荷役機にも安全配慮

厳本金属・大阪工場は、関西最大の老廃スクラップ発生地・大阪エリアの集荷・加工拠点で、2013年に開設した。2019年に切断圧1,250トンの油圧シャーを設置し、現在は月間2,000～2,500トンの鉄スクラップを扱っている。高速道路の出入口に近く、持ち込みが多いほか、中部～関西地区の幅広いエリアへ出荷する上でのアクセスも良い。天井クレーンが無い屋外ヤードのため、スクラップの荷役は全て建設機械で行っている。主要荷役機は全て住友建機製となっており、SH200-7、SH250-7MH、SW350-7の3機が稼働している。



SH250-7MH(大阪工場)

大阪工場の運営を統括する本道裕介工場長は「アフターサービスなどの対応がとにかく速い。これが住友建

機を選ぶ決め手になっている」という。

荷役機に取り付けてある危険を知らせるステッカーや立ち入り禁止のマークは厳本金属が指定するデザインで統一されている。厳本金属の安全への配慮がこうしたところにも反映されている。



SH200-7(大阪工場)

担当：西畑 佳則

円滑な工場運営と安全な操業にお役立ていただけるように営業・サービスともに尽力いたします。リサイクル荷役機は住友建機にお任せください！



住友建機販売株式会社 滋賀営業所
 〒525-0072 滋賀県草津市笠山5丁目3番8号
 Tel：050-9001-8461 Fax：077-563-5291